

海老名市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、西に大山・丹沢連峰を望み、東西は6.15km、南北8.70kmの南北に長い形状で、市域面積は約26.48 ㌥です。西は相模川を隔て厚木市、北は座間市、東は大和市及び綾瀬市、南は藤沢市及び寒川町と接し、約13万の人が暮らしています。

アクセスは、相鉄線で横浜まで約30分、小田急線で新宿まで約50分、JR相模線が南北に走っており、非常に交通便利な場所に位置しています。平成22年2月には海老名インターチェンジが開通し利便性がアップしています。今後は、首都圏中央連絡自動車道（さがみ縦貫道路）や第二東名自動車道の整備により、さらなる交通便利性の向上が期待されます。

一方で海老名駅の西側は水田地帯として有名な海老名耕地があり、東側には相模横山九里と呼ばれる丘陵地帯があり、相模国分寺跡、相模国分尼寺跡、秋葉山古墳群等、歴史的にも多くの名所旧跡があります。

海老名市は、昭和46年11月1日に市制施行し、今年で40周年になります。そのため今年、多くの市民の方が参加して、記念イベントが行われ、お祝いムードが高まっています。

その一つに秋の風物詩になっている海老名かかしまつりがありま

す。毎年9月に2週間程度、その年の話題の人物、キャラクターや出来事を表現したかかしたちが、水田の脇に展示され、それぞれの出来映えを審査し、表彰するというものです。市内の中新田地区と今泉地区という2カ所の地域で開催されており、中新田地区は今年で19回目、今泉地区は13回目を迎えました。両地域共に、例年より盛大に行われ、かかしの展示は合計数で111体になりました。また、テレビやラジオで数多く紹介され、県内に限らず、県外からも多くの方がお越しになり、大変賑わいました。このような行事を通じて、田園風景が後世に受継がればと思います。



また、今年、市のイメージキャラクター『えび～にゃ』が誕生しました。名前の由来は海老名市＝えびな＝えび～にゃ、とし「エビ」と「猫」を融合した愛らしいゆるキャラです。市の花であるサツキを手に持ち、体が市の特産品のいちごになっています。元気よくジャンプする姿は市のさらなる発展、飛躍をデザインしています。今後

は、海老名市の発展と共に、えび～にゃをよろしくお願いします。



最後に海老名市ならではの名物を紹介します。本市は、いちごの生産が盛んで、神奈川県内一の生産量を誇っています。そのため、市内のいちごを使った『いちごわいん』、『あわベリー』、『いちご酢』等が有名です。また、「かながわの名産100選」に選ばれた『吟味豚』は、市内の精肉店が試行錯誤を繰り返して考案し、2年の歳月をかけて完成した一品です。豚肉にオリジナル味噌を練り込んだものですが、お肉に味噌の味と香りがしっかりと染み込み、おかずやお酒のおつまみに大人気です。皆さまも、海老名市へお立ち寄りの際はぜひご賞味ください。



(海老名市経済環境部農政課)